

EUR / JPY ユーロ円 月次レポート

前月振り返りと2026年10月の相場展望

発行日

October 1, 2026

対象期間

9月実績 / 10月展望

通貨ペア

EUR / JPY

発行頻度

Monthly

9月末レート（終値）

178.332

-3.90%（9月月間騰落率）

9月高値

185.748

9月安値

177.332

ECB金利

2.50%

BOJ金利

1.25%

今月のハイライト

9月は185.57円からスタートし、178.33円で引け、月間-3.90%と大幅な円高・ユーロ安となった

ECBは9/10に3金利を0.25%引き上げ、預金金利は2.50%へ。中東情勢に伴うエネルギー高でインフレが高止まりする中、利上げを継続

日銀は9/17-18に1.00%から1.25%へ利上げ（賛成7対反対2）。3か月ぶりの利上げで利上げペースが加速し、円買いが優勢となった

ECB・日銀ともに利上げとなる中、欧日金利差（計算上の単純比較でECB預金金利2.50% - BOJ1.25% = 1.25pp）は前月と同水準にとどまった一方、日銀の利上げペース加速が円高材料として意識されたとみられる

10月 基本シナリオ レンジ

174 - 183円

ECB・日銀とも次回は10月下旬～11月。追加利上げ観測が焦点

欧日政策金利差

1.25pp

ECB預金金利2.50% - BOJ1.25% = 計算上の単純比較で1.25pp。前月と同水準

始値

185.569

9月最初の取引日

高値

185.748

月中最高値

安値

177.332

月中最安値

月間騰落

-3.90%

-7.237円

9月の相場動向

9月のユーロ円は**185.57円でスタート**した。9/10のECB理事会で預金金利が2.50%へ引き上げられ、ユーロが下支えされる場面もあったが、9/17-18の日銀会合で政策金利が1.25%へ引き上げられると円高が加速した。月中安値は**177.33円**まで下落する場面があった。

ECBと日銀がともに0.25%の利上げを実施したことで計算上の欧日金利差（ECB預金金利2.50%－BOJ1.25%）は1.25ppと前月と同水準となったが、日銀の利上げペース加速が円高材料として意識されたとみられ、月末は**178.33円で引け、月間-3.90%**の大幅な下落となった。

主要イベントの影響

EU ECB 9月10日 利上げ

ECBの3つの主要政策金利（預金ファシリティ・主要リファイ・限界貸出）を一括で**0.25%引き上げ、預金金利は2.50%へ**（主要リファイ2.65%、限界貸出2.90%）

中東情勢に伴うエネルギー高でインフレがターゲットを大幅に上回るとして引き締め継続（2026年の利上げは6月・9月の2回、7月は据え置き）

ラガルド総裁は特定の利上げ経路にコミットせず、データ次第のアプローチを維持。次回は10/29を予定

JP 日銀 9月17～18日 利上げ

政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を**1.00%から1.25%へ引き上げ**（賛成7対反対2）。3カ月ぶりの利上げで、利上げペースが加速した形

反対した2名の委員は現時点での利上げには時期尚早との見方を示したと報じられた。植田総裁は会見で今後も機動的な判断を継続する考えを示した

利上げ後も金融環境はなお緩和的と位置づけられている。次回会合は10/29-30を予定（展望レポート公表回）

9月の総括

9月はECB・日銀がともに0.25%の利上げを実施した。計算上の欧日金利差（ECB預金金利2.50%－BOJ1.25%）は1.25ppと前月と同水準にとどまった。しかし、日銀の利上げペース加速が円買い材料として意識されたとみられ、ユーロ円は月間-3.90%と大幅に下落した。10月以降も日銀の追加利上げ観測がユーロ円の上値を抑える要因となりうる。

10月の注目ポイント

10月は**日銀の次回会合（10月下旬）**と**ECBの次回会合**が焦点となる。日銀が追加利上げを実施すれば円高要因、ECBが追加利上げに踏み切ればユーロ高要因となる可能性があり、両中銀の動向が方向性を見極める材料となる。中東情勢に絡むエネルギー価格の動向は引き続き欧州のインフレ材料として意識されやすい。計算上の欧日金利差は1.25ppと相対的に小さく、双方向の動きに注意が必要な月といえる。

シナリオ別レンジ予測

 強気	25%	ECBが追加利上げ、日銀が据え置きで欧日金利差拡大	179 – 185円
 基本	50%	ECB・日銀ともに市場予想の範囲内でレンジ推移	174 – 183円
 弱気	25%	日銀が追加利上げ、またはECBが慎重姿勢でユーロ円下落	169 – 178円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
日銀の追加利上げ観測（10月下旬）	中	円高	追加利上げなら金利差縮小を意識した円買いが強まりやすい
ECBの追加利上げ観測	中	ユーロ高	中東情勢に伴うエネルギー高が続けばECBの追加引き締め観測が強まる可能性
ユーロ圏インフレの動向	中	ユーロ高	インフレが高止まりすればECBのタカ派姿勢維持がユーロを下支えしやすい
ユーロ圏景気の下振れ	中	ユーロ安	景気減速が意識されればECBの引き締め余地が後退しユーロ売りに

10月の見通し

基本シナリオは**174～183円のレンジ**とみている。計算上の欧日金利差（ECB預金金利2.50%－BOJ1.25%）は1.25ppと相対的に小さく、双方向の動きとなる可能性がある。日銀の追加利上げ観測の強弱と、ECBのタカ派姿勢の維持が方向性を見極める主な材料となりうる。エネルギー価格と欧日のインフレ指標の動向に注意したい。

用語解説

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏21カ国の中央銀行。9/10に預金金利を2.50%へ引き上げ（2026年2回目の利上げ、7月は据え置き）。中東情勢によるエネルギー高でインフレ対応。次回は10/29を予定。

クロス円

米ドルを介さない円と他通貨の交換レートの総称。ユーロ円はドル円とユーロドルの動きに影響を受けやすい。

為替介入

政府・中央銀行が急激な為替変動を抑えるために外為市場で売買を行うこと。日本では財務省が権限を持つ。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。9/17-18会合で政策金利を1.25%へ引き上げ（賛成7対反対2）。利上げペースが加速。次回は10/29-30（展望レポート公表回）。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する基準金利。ECB預金金利2.50%とBOJ1.25%の差は計算上の単純比較で1.25pp（為替の方向を保証するものではない）。

HICP

ユーロ圏の消費者物価指数。ECBが物価目標（中期的に2%）の基準とする指標。ユーロスタット（Eurostat）が発表する速報値・確報値があり、数値は改定されることがある。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。